

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会  
再生普及行動計画ワーキンググループ（第6回）

議事要旨

平成17年2月1日（火）18:30～20:40

釧路地方合同庁舎4階 共用第三会議室

【出席者（敬称略）】

<委員（所属）>

- ・ 大西英一 （釧路武佐の森）
- ・ 金子正美 （酪農学園大学 助教授）
- ・ 近藤一燈美 （釧路湿原ボランティアレンジャーの会）
- ・ 清水信彦 （個人）
- ・ 新庄久志 （釧路国際ウェットランドセンター主幹）
- ・ 滝川喜三 （個人）
- ・ 永瀬知志 （個人）
- ・ 普久原涼太 （釧路市民活動センター「わっと」）

<再生普及小委員会（所属）>

- ・ 高橋忠一 （北海道教育大学釧路校 助教授）
- ・ 成ヶ澤茂 （釧路シャケの会）
- ・ 百瀬邦和 （個人）
- ・ 渡部清紀 （くしろネイチャーゲームの会）

<関係市町村（出席者）>

- ・ 釧路町 （産業経済課／中野正人）
- ・ 釧路市 （環境部環境政策課／木村俊宏）
- ・ 鶴居村 （振興観光課／土居孝之）

<釧路湿原再生協議会事務局（出席者）>

- ・ 国土交通省北海道開発局釧路開発建設部 （治水課流域計画官／大東淳一）
- ・ 林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター（所長／池田敏邦）
- ・ 北海道教育庁 釧路教育局 （生涯学習課社会教育指導班／岩崎摂也）
- ・ 北海道釧路支庁 （地域政策部環境生活課自然環境係／藤村朗子）

<ワーキンググループ事務局>

- ・ 環境省東北海道地区自然保護事務所
- ・ 財団法人北海道環境財団

## 【議事要旨】

〈事務局〉第6回再生普及行動計画ワーキンググループ（以下「行動計画WG」と表記）を開催する。ここからの進行は、座長にお任せする。

〈座長〉本日の議事1となる具体的な検討の進め方について、事務局からの説明を求める。

〈事務局〉本日は3グループに分かれて、それぞれ提言10「人・施設・地域のネットワークをつくる」についての検討をお願いしたい。30分後に各グループ検討結果の発表を予定している。考え方については、配布資料（「本日の検討について」）を参照願いたい。

\*\*\*\*\* ワークショップ開始 \*\*\*\*\*

〈座長〉これから、グループごとに発表していただきたい。

※ グループ発表に使った模造紙はエクセルファイルを参照。

### 提言10 人・施設・地域のネットワークをつくる

#### Aグループ

- 流域にはいろいろな施設があるが、博物館、自然系など分野ごとのグループで固まっているような気がする。こうした分野を越えたネットワークが望まれる。各施設の学芸員が実施者となりワークショップなどを行い、どうしたら湿原をアピールできるかを考えてはどうか。また、ワークショップの会場を誰かが提供してくれれば予算は抑えられるのではないか。
- 人のネットワークをつくるため、スタンプラリーをしてはどうか。施設では自然再生をアピールする何らかの企画を用意し、来訪者にそれぞれの施設がアピールする。スタンプ帳をいくらかで販売し、スタンプを全部集めたらなにかもらえるようにしてはどうか。
- 各施設で行事がいろいろ行われているが、その参加者を増やすため大学の自然系サークルなどの情報を活用し、自然再生の取組みに参加してもらえるよう働きかけてはどうか。

#### Bグループ

- 地域のネットワークづくりの具体的な議論は難しい。まず、連携の前提として情報を共有するシステムが必要であり、コンピューターを含めた連携の仕組みが必要である。その仕組みをつくったりバックアップしていくのはどこかといったら環境省ではないか、という意見があった。
- 民間（企業）の力も活用していくには、企業の自然再生活動がイメージアップにつながるようにするのも必要である。

#### Cグループ

- ネットワークの話が主となった。これまでの様々な活動はバラバラに行われており、全ての情報を集めて見えるようにする必要がある。多くの市民が集まるような場所、市民活動センター「わっと」の2階やMOO、幣舞交番の跡等どこかの施設に湿原情報を集め、常駐する

人を置き、そこに来ればいろいろなことがわかるようにすればよいのではないか。実施者としてはNPOと行政等と一緒にやってはどうか。一番大事なのは、各施設の行事がバラバラに行われるのではなく、情報を共有して多くの人に知ってもらうことではないか。

〈座長〉 3つのグループの提案をまとめると、情報と施設のネットワークが大切である。そのひとつの方法としてスタンプラリーのような方法や、それぞれの既存の施設などの情報を集めた、拠点となる施設が必要ということであった。付け加えたいこと、意見などないか。

〈委員〉 ネットワークはコンピューターのイメージで語られがちであるが、それはもっと活用すればよい。ただ、その前提となる施設のコンセプトや個性を明確にし、施設間同士で役割分担するような仕組みやネットワークが不足しているのではないか。こうした地道な部分を補強する必要がある。これによりそれぞれの特徴も認知されるし、イメージもはっきりする。

〈座長〉 JICAの研修では、道東の施設をリストアップし、スタッフや可能なアクティビティなどを調べた。それを全部並べると2ヶ月間程度のプログラムができる。こうしたコーディネートができれば地域の施設などが生きてくるのではないか。それをやるため、例えば新たな施設の創出、施設間をつなぐためにスタンプラリー等のアイデアが提案されたと思う。

〈委員〉 人材育成の話だが、それぞれが知っている人等を他の人に伝えることができれば草の根的な強さを発揮するのではないか。タクシーやお店など、接客業がその役割を果たせると良い。そうした潜在的な力が使われるようなコーディネートが必要だと思う。

〈委員〉 3年前に100人ほどの湿原の人材リストを作ったが運用されず機能していない。金と時間をかけてもこれでは役に立たない。すばらしい人材リストがあるのに、中心となる組織があって動く人がいなければこうした取組みは生きてこない。釧路市で展望台をどうするか検討しているが、中身こそが大事で、建物の改修よりもデスクを設けて人をおくべきである。そのための最低限のお金はどこかが用意する必要がある。行動計画を立てるという取組みをしている環境省は是非ともこれから考えて欲しい。

〈委員〉 これまで具体的に挙げられた場所や施設については、この会議に参加している人は大抵知っている。広めるべきはこうした会合や施設に来ない人々が対象であり、「わっと」のようなたくさんの市民が集まるところでのアクション、環境への関心の低い人に対するアクションを考えていかないと意味がないのではないか。

〈委員〉 具体的に人や施設など、どこかが核になってやることが求められている。

〈委員〉 北斗の展望台では観光シーズンのみNPOが請負でガイドを行っていた。月10万円あれば展望台に人が配置できる、という換算であった。観光シーズン以外の時期を環境省や国交省など他の行政が支援すれば通年で人を配置できるのではないか。

〈事務局〉 遊学館のソフト事業に関してはNPOが委託を受け運営されるが、要はコーディネーターの人とそれを可能にする予算である。予算については行政で検討する必要があるが、人についてはどう考えていけばよいか。

〈委員〉 展望台のガイドをNPOが請けた際には、協力できるメンバーで割り振って行われた。

ボランティアで、1人1日3000円であったが、それでも意欲のある人はやってくれる。  
ただ、NPOが持出した部分もある。

〈座長〉具体的にだれ（どの組織）が担えるのか、行政はだれ（どこの組織）にどのようなバックアップをするのか、という事務局からの問いかけに関してアイデア等ありませんか。

〈委員〉NPOメンバーにはそれぞれに仕事があり、主にガイドの仕事を担当したのは退職者である。本当は若い人や現職者に担って欲しい。学生も経験していくうちにガイドなどある程度解説ができるようになる。

〈座長〉「人材」はたくさんいる。あとは誰が日程調整や派遣などのコーディネートをするかが問題である。

〈委員〉大学は、お金は無いが担い手になれる可能性はある。地域に在る大学は、地域の重要な機能であり、大学として覚悟ができれば積極的にとりくんでいけるはずである。

〈座長〉人材や施設もすでにあるが、それを組織して動かしていくのが課題である。提言10に関する議論はこれで終了とする。

このあと、過去に検討した結果も踏まえた行動計画骨子案と来年度から着手する具体的な取り組みに関する討議を行いたい。

\*\*\*\*\* 休 憩 \*\*\*\*\*

〈座長〉配布された「釧路湿原自然再生協議会行動計画（骨子案）」は、これまでの行動計画WGの検討を基にWG事務局が作成した。これを行動計画WGの検討結果として、再生普及小委員会に諮る予定である。内容について事務局から説明を求める。

〈事務局〉これまでWGで検討していただいたものをまとめた一覧表、それを基に作成した行動計画（骨子案）、その中から来年度着手する予定の取組みを別表とした。この骨子案を文章化したものが行動計画となる。

行動計画としての取組みはIV章に書いてあり、①主旨②今後5年程度で取組むこと③今後5年間の検討課題、という3つの構成である。赤字は来年度から着手するものとして別表にとりあげたもの、青字は検討をまとめた一覧表には出てこなかったがWG事務局が提案するもの、黒字は具体的な実施者等がまだ決まっていないものである。

別表は、来年度から着手する予定の取組みを行動計画（骨子案）から抜粋したものである。実施者・協力者の欄に出ている具体的な団体名称は、事前に先方と相談しご協力いただけるということで、了解を得て記載している。赤字で書いてある部分はWGにご検討いただきたい部分である。

〈座長〉全般を通してご質問、ご意見をいただきたい。

〈事務局〉この行動計画の位置づけと改訂の仕組みが重要だと考えている。行動計画は5年に1度自然再生協議会が改訂する。これは協議会が大人数であり開催される頻度も少なく、基本的なことしか諮れないという理由からである。具体的な取組みが記載される別表は再生普及小委員会レベルで毎年見直しをしていく予定である。その仕組みについてご意見をいただきたい。

〈委員〉本来は再生普及小委員会が行動計画内容の責任を負うべきと考える。協議会には報告

でよいと思う。しかし、実のある議論は小委員会よりWGレベルに降ろしたほうが活発な議論ができるかもしれない。一番機動力があるのはWGである。

〈委員〉 協議会では全体構想に基づく実施計画を6つの小委員会におろすことになっているが、再生普及小委員会ではどのような実施計画が協議されるのか。また、行動計画と実施計画の関係についての説明を求める。

〈事務局〉 全体構想5章の1～5までは、森林再生など自然に対し直接働きかけを行う場合の施策が記述されている。事業実施者が実施計画案を作成し、関係する小委員会で議論されることとなる。他方、環境教育や市民参加などのいわゆるソフト事業は、第5章の6の施策で施策概要がまとめられている。ソフト事業は、自然への直接的な働きかけではないので実施計画にはなじまないが、この行動計画は具体的な取組み内容や実施主体を記載するなど、実施計画に準じた性格のものと考えている。この行動計画は、協議会の名で作成することになるが、各取組みを実際に実施するのは主催者である。

〈委員〉 ソフトの施策は実施計画になじまないという整理でいいのかどうかは議論が要る。この行動計画はこれから全国に広まる自然再生事業のソフトの実施計画の前例となる。ソフトは予算面での課題があり、逆に正規の実施計画に位置づけるほうが予算確保しやすいのではないか。

〈事務局〉 法律上の実施計画には、対象とする地理的範囲や再生目標等盛り込むべき項目が定まっており、ソフトの計画と合わない部分がある。理屈では実施計画からソフトを排除しなくても良いが、ソフト部分を実施計画として独立して作ることは考えていない。個々の実施計画にはソフトが含まれるが、その部分はこの行動計画を踏まえたものになるはずである。

〈委員〉 例えば他地域でソフトを柱とする自然再生事業が計画されたとき、釧路の前例が足を引っ張らないような配慮が必要である。

〈座長〉 この行動計画を実施計画に位置づけるかどうかは今後も検討が必要である。また、今後立ち上がる個々の実施計画にはこの行動計画の趣旨が盛り込まれるようWGから提案するものである。

〈委員〉 これまでの常識的な発想だと、ソフトは事業本体に付随するものという扱いだったが、ここではより積極的な役割をもたせることをオリジナリティーと考えてもいいのではないか。

〈座長〉 ソフトが今後実施計画などのハードをリードすることも想定して位置づけていきたい。

〈委員〉 ハードに限らずソフトも実行するためのお金が必要である。実施計画は予算確保されるというのであれば、そうしなかった場合、予算確保できる見込みはどうか。

〈事務局〉 この行動計画を作成する作業も、実施計画等なしで予算が出ている。実施計画でなければ予算が付かないわけではないが、現時点での比較は難しい。自然再生推進法にも環境学習や市民参加の重要性は明記してあり、予算がまったく確保できない、ということはない。

〈委員〉 今後はソフトに関する価値もみとめられるようになってくるのではないか。実際ソフトに関する話が全体構想のひとつ（5章の6：持続的な利用と環境教育の促進）として立ち上げられるような扱いになってきている。

〈座長〉 今後は、事務局で行動計画骨子案を文章化し、みなさんに何らかの方法でお示しして意見をいただき、そのうえで再生普及小委員会に諮る予定である。今後の流れについて事務局から説明を求める。

〈事務局〉 本日は十分に内容を議論できていないので、意見があれば後日WG事務局までご連絡いただきたい。今後は2月17日の再生普及小委員会にて、文章化した行動計画（骨子案）を提示してご議論いただく。

行動計画（骨子案）IV章の赤字は具体的な実行の見通しがあるが、黒字の取組みは実施者等が未定であり、これらの実施者・協力者を広く募り、あるいは個別に探していくことを予定している。この呼びかけについても次回小委員会に諮る。さらに、2月22日開催予定の協議会において、これらの進め方についての了解をいただき、4月以降に協力者を募っていく。

5月ごろ再度行動計画WGを開催し、新たな協力者・実施者が得られたものを盛り込んだ行動計画をまとめ、協議会に提出する。別表の具体的な取組みについては小委員会で毎年見直し、行動計画全体については全体構想にあわせて概ね5年毎に見直していきたい。

〈事務局〉 IV章の「②今後5年間の取組み」は今後5年程度で別表に移していきたいものであり、「③今後5年間の検討課題」については事務局として実施が困難と判断しているものである。この内容についてもご意見をいただきたい。

〈委員〉 「③今後5年間の検討課題」については必要性のあるもので、画期的な解決策や協力者が現れれば別表に移してよいと思う。

〈座長〉 なにか連絡事項はないか。

〈事務局〉 配布した資料「関連活動の紹介」の中で、2月12日に開催される環境教育フェアは協議会も後援しておりますので、是非おでかけください。

〈座長〉 他にないか。なければ進行を事務局にお返しする。

〈事務局〉 本日も真剣な議論に感謝する。これで第6回行動計画WGを終了する。

以上